

第3章 「^{うま}美し国おこし・三重」の取組状況 ～多様な主体が参画し、地域づくりの実践・展開を支援する仕組み～

1 「^{うま}美し国おこし・三重」全体概要

「^{うま}美し国おこし・三重」は、住む人も訪れる人も「心の豊かさ」を実感できる「こころのふるさと三重」づくりを進める一環として、三重県全域で行う、三重の「文化力」を生かす先導的な取組です。地域の多様な主体が、地域の特色ある自然や歴史・文化などを活用して取り組む地域づくりを基本に、平成21年（2009年）から平成26年（2014年）までの6年間にわたって、多彩な催しを展開することにより、地域の魅力や価値を向上させ、発信するとともに、集客交流の拡大をはかり、自立・持続可能な地域づくりへとつなげていきます。

平成20年（2008年）には、県や市町、地域づくり実践者、企業等地域の多様な主体で構成する「^{うま}美し国おこし・三重」実行委員会を組織し、平成21年（2009年）には、「地域での^{うま}美し国おこし」の取組を始めました。平成22年（2010年）からは、県内各地のパートナーグループの活動の中から共通する分野の活動を連携し、全県での取組を推進する「テーマに基づき全県的に取り組む^{うま}美し国おこし」に取り組み、平成26年（2014年）には、集大成イベントとして、地域をより良くしていこうとする住民の皆さんによる6年間の地域づくりの成果を披露し、この取組の終了以降の自立・持続可能な地域づくりにつなげていくこととしています。

平成21年（2009年）は、オープニングの年として、4月18日の「県民の日」記念事業においてこの取組のオープニングを宣言するとともに、県内各地で取組の始まりをPRしました。その後、この取組の基本となる、地域の課題やビジョンを話し合う座談会を県内各地で599回開催し、座談会を通して地域をより良くしていこうとする住民の皆さんにパートナーグループとして153グループに登録いただくなど、「地域での^{うま}美し国おこし」の取組を進めました。また、オープニング事業として、拡大座談会や「対話する」大会を12回開催するとともに、取組のモデルとなる10の事業をキックオフプロジェクトとして重点的に支援しました。さらに、担い手の育成として、ファシリテーション研修や情報発信研修の実施、専門家派遣や財政的支援を行いました。

2009年 オープニング

■ オープニングⅠ(地域づくりを「対話する」大会)

地域づくりを加速する県民運動であることを周知するとともに、地域の課題やビジョンについて、地域づくりに取り組む皆さんが対話する集会をワールドカフェ方式で行います。



■ オープニングⅡ(地域づくりを「実践する」場)

先導的な地域づくりのモデルを県内数地域でキックオフプロジェクトとして取り上げ、積極的に支援するとともに、その活動プロセスを記録し、広報していきます。また、活動成果を発表する交流会を開催します。

■ オープニングⅢ(同時期開催の県・市町などの大規模イベントとの連携)

熊野古道世界遺産登録5周年事業など、県や市町などの大規模イベントと連携し「美し国おこし・三重」の取組をPRしていきます。

地域での美し国おこし

全県的に共通する分野の活動

テーマに基づき全県的に 取り組む美し国おこし

- ◆ 地域づくり活動をしている人や、関心のある人に集まっていただき、地域の課題やビジョンについて、話し合う座談会を開催します。
- ◆ 座談会をとおして、地域をより良くしていくとする住民の皆さんの自発的な地域づくりグループに「パートナーグループ」として登録いただきます。

- ◆ 地域の“絆”づくりや地域の資源を生かした付加価値づくりに取り組めます。

サポート
メニュー

- ◆ 県内各地域のパートナーグループの活動の中から共通する分野の活動を連携し、テーマプロジェクトとして全県での取組を推進します。

- ◆ 暮らしに密接に関わるテーマ、例えば、景観づくり、森づくり、環境、食などパートナーグループにおける類似の活動を基にしながらテーマを設定していきます。

2014年 集大成

■ 集大成Ⅰ(地域づくりの「成果を発表する」大会)

パートナーグループが一堂に会し、6年間の成果を発表し、その活動の継続について語り合う場を設けます。

■ 集大成Ⅱ(地域づくりを「応用する」集客イベント)

集客交流につながる取組の成果を応用し、誘客のしくみなどの体制を整え、県内全域を対象とした集客交流イベントを開催します。

■ 集大成Ⅲ(地域づくりを「高めあう」交流イベント)

観光や集客とは直接結びつかない活動についても集大成の場を設けます。これまでの活動と関連する会議やシンポジウムを開催するなど、その後の活動の継続や発展につながる交流イベントを開催します。

2 「地域での^{うま}美し国おこし」の取組状況

(1) 「座談会」等の開催

① 目的（狙い）

- ア 地域のキーパーソンを顕在化すること
- イ 地域の魅力を再発見し、それを資源とする活動を生み出すこと
- ウ 地域の課題を明らかにし、解決できる活動を生み出すこと
- エ 地域を考える住民の仲間を増やし、活動の輪を広げていくこと
- オ 既存地域づくりグループの安定や拡大・発展に必要な活動を生み出すこと

○ 座談会開催目標 350回

② 内容

「地域づくりに取り組んでいる」または「これから始めようとする」住民の皆さんを対象に、地域の課題やビジョンを話し合う場となる座談会、説明会等を市町と調整の上、599回開催しました。



(津市座談会一志会場)



(東員町座談会)

(2) パートナーグループの登録

① 目的（狙い）

パートナーグループとは、「^{うま}美し国おこし・三重」の取組の趣旨に沿って、住民の皆さんが主体となり自発的に地域をより良くしていこうとする活動を行うグループで、「^{うま}美し国おこし・三重」実行委員会に登録されたグループをいいます。特色ある地域の資源を生かしたパートナーグループの活動を活発にすることによって、自立・持続可能な地域づくりをめざします。

○ パートナーグループ登録目標 100グループ

② 内容

登録パートナーグループ数は、153となりました。

プロデューサーによる助言等の他、専門家派遣や財政的支援を開始しました。



(縁がわサミット)



(多度雅楽会)

(3)「地域での^{うま}美し国おこし」の取組成果など

① 取組の成果など

- ・地域のキーパーソンの顕在化と併せて、地域資源を活用して地域をより良くしていこうとする仲間や活動の輪が広がりました。
- ・座談会、パートナーグループ登録数とも、目標を上回り、住民の皆さんの地域づくりに取り組む気運、意欲の向上につながりました。
- ・この取組の基礎となる座談会や説明会を、市町の協力を得て全市町で開催することができ、県内全域で展開していく基礎ができました。

② 今後の方針

より多くの皆さんにこの取組を知っていただき、また、参画いただくために、公募型（市町広報等による呼びかけ型）の座談会の開催を市町とともに進め、地域の課題やビジョンを話し合い、地域資源の発掘・活用についての対話を重視していきます。また、全市町でパートナーグループの登録が進むように努めます。

3 「テーマに基づき全県的に取り組む^{うま}美し国おこし」取組状況

① 目的（狙い）

県内各地域での座談会やパートナーグループの活動の中から、共通する分野の活動を全県的に連携して展開するもので、このことにより、個々のパートナーグループの活動が活発化するとともに、新たなネットワークを生み、より連携の取れた活動として発展していくことが期待されます。あわせて、地域外への情報発信にもつなげます。

② 内容

平成22年度から26年度までの5年間をかけて、「人と人、人と地域、人と自然の“絆”を全体の基軸に、2年間ずつ展開するテーマ設定の理念を下図のように決めました。

平成22、23年度に実施するテーマについては、「海の命・森の命」と決定し、三重県全域に広がる「海」「森」をはじめ「川」「里」といった人と自然の関わりや自然の恵みを生かしながら、豊かな暮らしづくりをめざす取組を展開することとしました。また、テーマプロジェクト（素案）の作成を行いました。

「美し国おこし・三重」基本構想の基本理念に掲げる「人と人、人と地域、人と自然の“絆”」を5年間の基軸に据えて、次の4つの理念によりテーマ設定を行います。

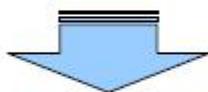
テーマ設定の理念『人と自然の“絆”づくり』(平成22、23年度)

「人と自然の“絆”」、すなわち、人々と自然との健全なつながりを再生し、持続可能な豊かな暮らしづくりをめざします。



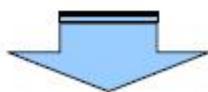
テーマ設定の理念『人と地域の“絆”づくり』(平成23、24年度)

「人と地域の“絆”」、すなわち、歴史・文化をとおした人々と地域のつながりや地域への誇りと愛着を深め、豊かな地域社会づくりをめざします。



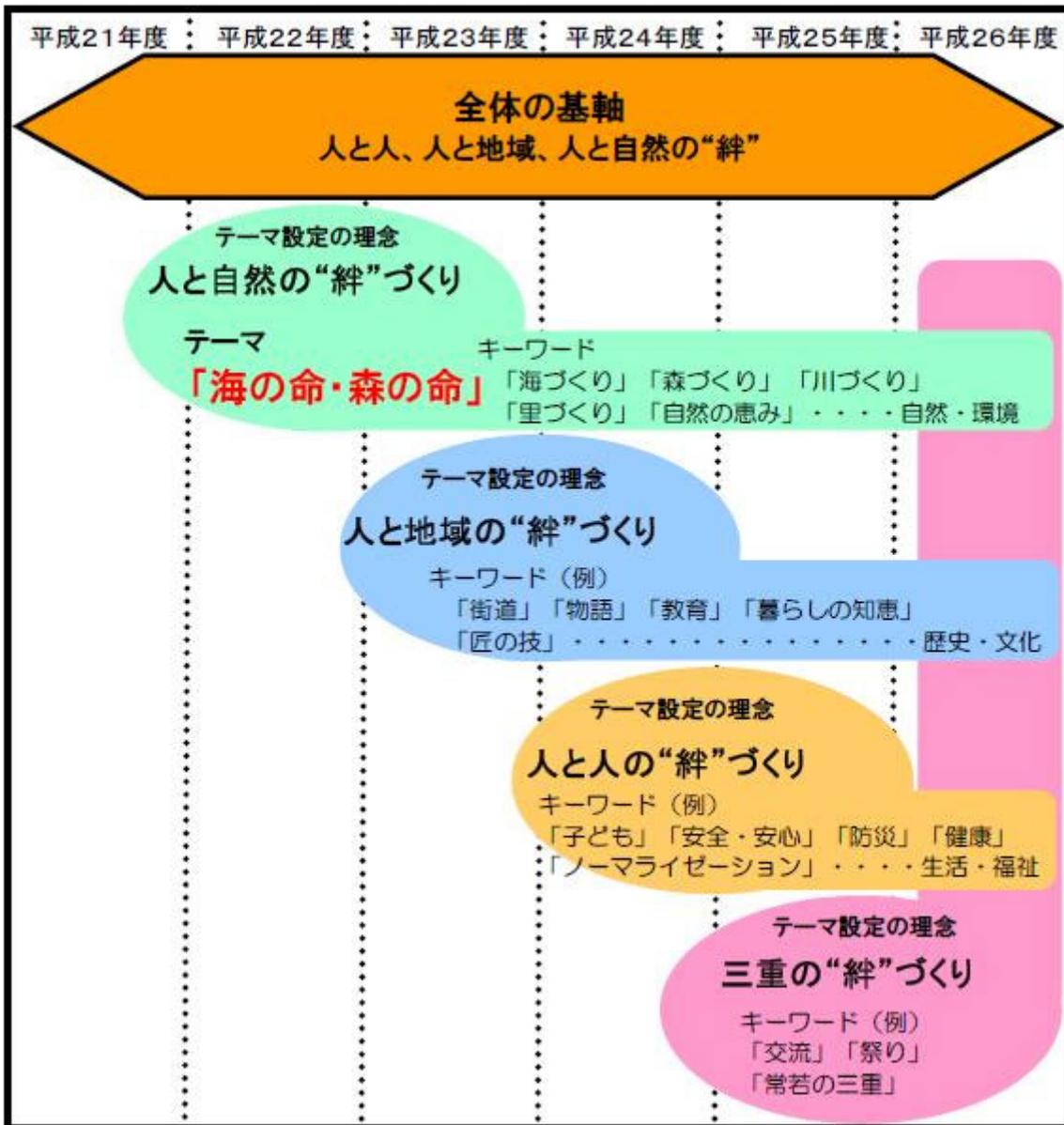
テーマ設定の理念『人と人の“絆”づくり』(平成24、25年度)

「人と人の“絆”」、すなわち、かつてあったような助け合いの精神や「おかげさま」の精神をもとに、さまざまな人と人の豊かな関係づくりをめざします。



テーマ設定の理念『三重の“絆”づくり』(平成25、26年度)

取組の期間中培ってきた、「文化力」を生かした、人と自然、人と地域、人と人の3つの“絆”を連携させ、「三重ならではの「文化力」を生かした“絆”づくり」につなげます。



③ 取組の成果など

- ・テーマ設定の理念や、1テーマに概ね2年間取り組むこととするテーマプロジェクトの進め方などを整理しました。
- ・具体的なプロジェクトの提案を早期に行うことができれば、より多くの関係者と連携した取組やPRができたのではないかと考えています。

④ 今後の方針

今後は、早期に具体的なプロジェクトを検討し、県、市町、実行委員会委員等と連携した取組にしていきます。また、平成23、24年度のテーマを「人と地域の“絆”づくり」に基づき決定していきます。

4 「^{うま}美し国おこし・三重」オープニングの取組状況

【オープニングⅠ（地域づくりを「対話する」大会）】

(1) 「県民の日」記念事業

① 目的（狙い）

6年間にわたる本取組の理念や内容を県民の皆さんに認知・共有していただくことを目的に、実行委員会会長 野呂昭彦三重県知事によるオープニング宣言と県内各地でのアピールイベントを行います。

② 内容

「県民の日」記念事業の一部として実施しました。

【日 時】平成21年4月18日（土）

【場 所】三重県文化会館中ホール

【内 容】オープニング宣言、シンボルマーク最優秀賞受賞者表彰式

【その他】三重県総合文化センター内や県内各地域（桑名市、四日市市、多気町（2箇所）、伊勢市、伊賀市（2箇所）、尾鷲市、熊野市）で、企画委員会委員を中心とするアピールイベントを開催



（オープニング宣言を読み上げる実行委員会会長）



（「県民の日」のオープニングイベント）



（地域のアピールイベント）



（地域のアピールイベント）

③ 取組の成果など

多くのメディアに取り上げられ、本取組のスタートを県民の皆さんへアピールすることができました。

④ 今後の方針

今後も毎年の「県民の日」記念事業に合わせて、本取組をPRする企画を考えていきます。

（2）市町での拡大座談会及び広域での「対話する」大会

① 目的（狙い）

パートナーグループや個人での参加者等の情報共有や意思の疎通を図り、グルー

プ間のネットワークづくりの促進と課題解決のきっかけづくりを目的として、ワールドカフェ方式で行います。

なお、ワールドカフェ方式とは、4～5人単位でテーブルにつき意見交換を行い、一定の時間がくれば別のテーブルに移って、異なるメンバーとの意見交換を繰り返していくもので、知識や知恵を高め合う会議手法の一つです。

- 拡大座談会の開催目標 20ヶ所
- 「対話する」大会の開催目標 5地域

② 内容

市町での拡大座談会は県内7ヶ所で開催し、延べ319人に参加いただき、広域での「対話する」大会は県内5ヶ所で開催し、延べ421人に参加いただきました。

	実施日	市町	場所	参加者数	備考
拡大座談会(ワールドカフェ方式)					
1	平成21年 6月25日(木)	紀宝町	紀宝町福祉センター	48	紀宝町社会福祉協議会の「いきいきサロン」代表者会議と併せて実施
2	平成21年 10月15日(木)	志摩市	志摩市阿児アリーナ	48	講師:矢野 憲一 氏(元伊勢神宮神職・現NPO 法人五十鈴塾塾長) 演題:「伊勢・志摩の食材と神様の食事」
3	平成21年 11月 4日(水)	伊勢市	竇日館	56	講師:前野 まさる 氏(日本イコモス国内委員会委員長) 演題:「道の世界遺産登録に向けて ～世界会議・国際交流シンポジウムを総括する～」
4	平成21年 11月 8日(日)	多気町	多気町民文化会館	34	「医食同源フォーラム in 多気町」(主催:医食同源みえ(PG))と併せて実施
5	平成21年 11月22日(日)	桑名市、 木曾岬町	ながしま遊館	50	講師:宮本 倫明 氏(「 ^{うま} 美し国おこし・三重」総合プロデューサー) 演題:「自立型地域創生術」
6	平成21年 11月29日(日)	尾鷲市、 紀北町	紀北町町民センター	29	講師:原 康久 氏(総務省地域人材活性化事業地域人材ネット) 演題:「自分の元気が地域の元気！」
7	平成22年 2月 7日(日)	熊野市、 御浜町、 紀宝町	紀宝町保健センター	54	「東紀州地域の農業の未来について考える」、アクティブファーマーズと共催



(桑名市・木曾岬町)



(熊野市・御浜町・紀宝町)

	実施日	市町	場所	参加者数	備考
「対話する」大会(ワールドカフェ方式)					
1	平成21年 12月20日(日)	玉城町(伊勢志摩地域)	玉城町保健福祉会館ふれあいホール	80	講師 田中 俊弘 氏(岐阜薬科大学特命教授) 演題 「先人に学ぶ ～近世伊勢における本草学～」
2	平成22年 1月23日(土)	津市(中勢地域)	津センターパレスホール	63	講師 藤田 志穂 氏(元ギャル社長) 演題 「若者とつながる力」
3	平成22年 1月30日(土)	桑名市(北勢地域)	くわなメディアライヴ	120	発表 「第1回観光甲子園」のグランプリ受賞校2校(島根県立隠岐島前高等学校、横浜市立みなと総合高校)及び三重県内の優秀作品賞受賞校(三重県立名張高校)
4	平成22年 2月 6日(土)	伊賀市(伊賀地域)	三重県伊賀庁舎	78	講師 河田 瑠子 氏 (「うちの実家」代表 平成19年度地域づくり総務大臣表彰個人賞受賞) 演題 「ご近所付き合いの輪 ～みんなで創る安心社会～」
5	平成22年 2月14日(日)	尾鷲市(東紀州地域)	尾鷲市中央公民館	80	講師 黒川 敬 氏 (NHK「難問解決ご近所の底力」NHK名古屋放送局チーフプロデューサー) 演題 「「ご近所の底力」発揮の秘訣」



(津市 (中勢地域))



(伊賀市 (伊賀地域))

③ 取組の成果など

- ・多くの参加者を得て開催することができ、ネットワークづくりや課題解決のきっかけづくりにつながりました。
- ・「対話する」大会は、予定どおり県内5地域で開催できましたが、市町での拡大座談会は、市町によりパートナーグループ登録数や取組の熟度が異なることもあり、開催目標数には至りませんでした。

④ 今後の方針

参加者からは、「パートナーグループ自身の活動紹介の場となった」「ネットワークづくりにつながった」など、ワールドカフェ方式の交流会や座談会は有用であったとの声が多く寄せられたことから、引き続き希望する市町では開催していくこととします。

(3) キックオフプロジェクト

① 目的 (狙い)

本取組のモデルとなるようなパートナーグループの活動をキックオフプロジェクトとして位置づけ、パートナーグループ活動への支援や活動プロセスを記録・広報することで、取組を周知します。

② 内容

次のア～コの10のキックオフプロジェクトを選定し、専門化派遣やネットワーク支援、財政支援、広報支援等を用いて重点的に支援するとともに、この取組のモデルとしてPRしました。

- ア 桑名の千羽鶴 (連鶴) プロジェクト (桑名市ほか10市町)
- イ 地産地消・商店街活性化・福祉のまちづくり連携プロジェクト (四日市市)
- ウ 住民交流カフェプロジェクト (亀山市)
- エ 手作り甲冑プロジェクト (津市)
- オ たき環境くらぶ“竹遊号 (ちきゅうごう)”プロジェクト (多気町)
- カ 参宮ブランド「擬革紙」復興・振興プロジェクト (玉城町ほか3市町)
- キ 地域の文化人をテーマにした地域づくりプロジェクト (名張市)
- ク 下河内の里山を守るプロジェクト (紀北町)
- ケ 東紀州地域の農業を守れ 侍プロジェクト (七人の農業人獲得大作戦)
(紀宝町ほか4市町)
- コ 医食同源・三重の生物資源利活用プロジェクト (伊勢市ほか18市町)



(桑名市：桑名の千羽鶴を広める会)



(津市：三重ドリームクラブ)



(名張市：乱歩蔵びらきの会)



(紀北町：下河内の里山を守る会)

③ 取組の成果など

- ・グループ毎に様々な支援を行うことで、それぞれの活動が一層促進されました。
- ・“10のきずなストーリー”として本取組を紹介する冊子やDVDを作成し、本取組を具体的に紹介することができました。

④ 今後の方針

今後も、「^{うま}美し国おこし・三重」の取組のモデルとして、また、この取組における中心的なパートナーグループとして、他のパートナーグループの活動の見本・手本になるよう支援していきます。

(4) 成果発表・交流会

① 目的（狙い）

地域づくりを「対話する」大会（オープニングⅠ）及び地域づくりを「実践する」場（オープニングⅡ）の締めくくりとして、すべてのパートナーグループに呼びかけ、1年の取組をお互いに発表し合い、スタート年を総括すると同時に、次年度に向けた活動の抱負を語り合う交流会を行います。県内全域にわたってパートナーグループ間相互の連携を促進するとともに、本取組の情報発信の機会とすることを目的とします。

② 内容

平成22年2月28日に開催を予定していましたが、チリ沖で発生した大地震の影響による津波警報が発表されたため、中止となりました。このため、改めて、平成22年6月6日にメッセウイング・みえ（津市）で開催しました。

(5) 大規模イベントとの連携

① 目的（狙い）

- ア 全国的発信力を持つ大規模イベントと連動することにより、効果的な広報宣伝につなげます。
- イ 連携する大規模イベント主催者のニーズに沿った活動を行っているグループに新規に呼びかけ、新たなパートナーグループの掘り起こし・登録につなげます。
- ウ 他府県で活動しているグループや企業と連携し活動することで文化力の向上につながります。

② 内容

	実施日	市町	場所	参加者数	備考
熊野古道世界遺産登録5周年記念事業					
1	平成21年 7月19日(日)	尾鷲市	熊野古道センター	100	語り部友の会10周年記念事業と共催で、「 ^{うま} 美し国おこし・三重」交流会を実施
2	平成21年 11月4日(水) (再掲)	伊勢市	竇日館	56	講師:前野 まさる 氏(日本イコモス国内委員会委員長) 演題:「道の世界遺産登録に向けて ~世界会議・国際交流シンポジウムを総括する~」

3	平成21年 11月15日(日)	紀北町	紀北町多目的会館	78	日本風景街道「伊勢熊野みち」推進協議会と共催で、「 ^{うまし} 美し国おこし・三重」交流会を実施 講師:小倉 肇 氏(紀北町元教育長) 演題:「熊野古道の魅力とそれを活かしたまちづくり」
平成21年度全国知事会議					
4	平成21年 7月13～15日 (月～水)	伊勢市	三重県営サンアリーナ	—	平成21年度全国知事会議において「 ^{うまし} 美し国おこし・三重」ブース設置
第33回全国高等学校総合文化祭					
5	平成21年 7月29日(水)	伊勢市	三重県営サンアリーナ	—	第33回全国高等学校総合文化祭において「 ^{うまし} 美し国おこし・三重」ブース設置
第29回世界新体操選手権三重大会					
6	平成21年 9月11～13日 (金～日)	伊勢市	三重県営サンアリーナ	—	第29回世界新体操選手権三重大会において「 ^{うまし} 美し国おこし・三重」ブース設置
伊勢湾台風50年事業「2009防災のつどい・みえ」					
7	平成21年 9月26、27日 (土・日)	桑名市	桑名輪中ドーム・輪中の郷	—	伊勢湾台風50年事業「2009防災のつどい・みえ」において「 ^{うまし} 美し国おこし・三重」のブース設置及びパートナーグループによるブース設置
木曾三川公園「流域祭2009」					
8	平成21年 10月11、12日 (日・月祝)	岐阜県海津市	木曾三川公園	—	木曾三川公園「流域祭2009」において「 ^{うまし} 美し国おこし・三重」ブース設置
第4回子育て応援！わくわくフェスタ					
9	平成22年 1月16、17日 (土・日)	伊勢市	三重県営サンアリーナ	—	子育て応援！わくわくフェスタにおいて「 ^{うまし} 美し国おこし・三重」ブース設置
第3回美し国三重市町対抗駅伝					
10	平成22年 2月21日(日)	津市～伊勢市	三重県営総合競技場	—	第3回美し国三重市町対抗駅伝において「 ^{うまし} 美し国おこし・三重」ブース設置
メディカルバレーフォーラム2010					
11	平成22年 2月26、27日 (金・土)	伊勢市	三重県営サンアリーナ	—	メディカルバレーフォーラム2010において「 ^{うまし} 美し国おこし・三重」ブース設置



(2009 防災のつどい・みえ)



(平成21年度全国知事会議)

③ 取組の成果など

- ・広報宣伝としては、取組をPRすることができました。
- ・広報宣伝における連携が取組の主となり、当初想定していた新たなパートナーグループの掘り起こしや他のグループや企業との連携については、一部を除き具体的な連携方策を見出せませんでした。

④ 今後の方針

引き続き県や市町が実施する主要なイベント等と連携を図り、広報宣伝を行うとともに、パートナーグループの活動やテーマにもとづく取組と具体的に連携できる事業を構築していきます。

5 担い手の育成と支援の取組状況

地域づくりをとおして「新しい時代の公」の担い手となる人材の育成を目的として研修を実施しました。

(1) ファシリテーション研修

① 目的（狙い）

異なる立場や考え方をもつ人びととの話し合いの場において、対話をとおして発想を膨らませたり、全員のアイデアを統合して新たな知恵を膨らませたり、全員のアイデアを統合して新たな知恵を生み出したりする「場づくり」のスキルや「進行役」としての心構えを習得します。

○ 目標開催回数 3会場（各4日間）

② 内容

「メンバー同士の気持ちや意見の方向性をまとめたい」「地域づくりをサポートしたい」という皆さんを対象に、津、四日市、伊勢の3会場それぞれ4日間、研修を実施し、52名の参加をいただきました。

	主な内容	津会場	四日市会場	伊勢会場
Step 1	★ファシリテーションの基本 (2日連続研修) ・＜聴く力＞の養成 ・場を和ませる技法 ・ファシリテーション演習 ・プロセスデザイン ほか	8月8日(土) 〈10時～17時〉 8月9日(日) 〈10時～17時〉 場所：津市市民活動センター 受講者実績：16人	8月29日(土) 〈10時～17時〉 8月30日(日) 〈10時～17時〉 場所：じばさん三重 受講者実績：16人	9月26日(土) 〈10時～17時〉 9月27日(日) 〈10時～17時〉 場所：伊勢市観光文化会館 受講者実績：20人
Step 2	★ファシリテーションの実践 ・「美(うま)し国おこし・三重」の座談会等での実地研修 (コーディネーターが情報提供&アドバイスでサポート)	8月中旬～ 10月上旬 (各受講者1回以上実地を体験) 受講者実績：16人	9月初旬～ 10月中旬 (各受講者1回以上実地を体験) 受講者実績：12人	9月下旬～ 11月中旬 (各受講者1回以上実地を体験) 受講者実績：19人

Step 3	★自分らしいファシリテーションとは？（1日研修） ・ステップ2のふりかえり（実践での課題と将来の展望を共有） ・ファシリテーション全般についての課題検討 ・目標とするファシリテーター像	10月10日（土） 〈10時～17時〉 場所：三重県 栄町庁舎 受講者実績：14人	10月24日（土） 〈10時～17時〉 場所：じばさん 三重 受講者実績：10人	11月21日（土） 〈10時～17時〉 場所：伊勢市観光 文化会館 受講者実績：15人
--------	---	---	--	---



（伊勢会場：ファシリテーション研修）



（四日市会場：ファシリテーション研修）

（2）広報・情報発信研修

① 目的（狙い）

自分たちの取組を広報することにより、仲間を増やしたり、多くの人から支援を得たりするなど、ネットワークを広げていくためには情報発信力を持つことが不可欠です。そのため、情報発信のスキルや他のグループ等との交流・連携、ネットワーク化を進めるための広報・情報発信力を兼ね備えた人材を育成します。また、希望者の中から「^{うま}美し国おこし・三重」PRチームを構成し、実際の事業の中で広報の現場を体験する機会をつくります。

○ 目標開催回数 3会場（各3日間）

② 内容

「グループの活動をもっとアピールしたい」「上手に宣伝して販売や誘客を伸ばしたい」という皆さんを対象に、桑名、名張、尾鷲の会場それぞれ3日間、研修を実施し、51名の参加をいただきました。

	主な内容	桑名会場 桑名工業高校	尾鷲会場 尾鷲高校	伊賀会場 名張高校
Step 1	「地域づくりに必要な広報とは？」 ・広報の必要性について学ぶ ・ブランディングの手法について ・プレスリリース作成 ほか	9月12日（土） 〈10時～17時〉 受講者実績：19人	10月3日（土） 〈10時～17時〉 受講者実績：14人	10月25日（日） 〈10時～17時〉 受講者実績：10人
Step 2	「インターネットやチラシを用いた効果的な広報・情報発信とはどんなもの？」 ・インターネット、チラシの特性を学ぶ ・ホームページ・ブログ作成など ・効果的なチラシ作成 ほか	10月18日（日） 〈10時～17時〉 受講者実績：18人	10月10日（土） 〈10時～17時〉 受講者実績：10人	11月14日（土） 〈10時～17時〉 受講者実績：16人

S t e p 3	「ビデオカメラを使った映像作り に挑戦！」	10月31日(土) 〈10時～17時〉	11月1日(日) 〈10時～17時〉	11月29日(日) 〈10時～17時〉
	・映像制作の基本を学ぶ	受講者実績：	受講者実績：	受講者実績：
	・ナレーションの原稿作成	14人	12人	10人
	・編集作業を体験 ・まとめ、振り返り ほか			



(桑名会場：広報・情報発信研修)



(尾鷲会場：広報・情報発信研修)

(3) 研修の取組成果など

① 取組の成果など

- ・受講者のアンケートでは、ファシリテーション研修の評価は100点満点中84.5点、広報・情報発信研修の評価は100点満点中89点と高い評価をいただきました。
- ・また、一部の受講者には、拡大座談会や「対話する」大会、成果発表・交流会等に、研修等で身に付けた技術を生かしてサポート役として参加いただきました。
- ・受講者が少ない会場があったので、広く周知に努める必要があります。

② 今後の方針

昨年度と異なる地域で引き続き行っていきます。

(4) グループ育成

① 目的(狙い)

パートナーグループの育成を図るため、グループのニーズを把握し、必要に応じて専門家派遣やネットワークコーディネーターによる連携支援を実施します。

② 内容

座談会等によりパートナーグループのニーズを把握し、パートナーグループ同士の連携や社会貢献活動に関心のある企業や地域との連携を進める大学等とパートナーグループの連携を進めるとともに、専門家派遣((6) 専門家派遣で再掲説明)の実施などを行いました。

③ 取組の成果など

- ・他のグループ等とネットワークができたことにより、活動が活性化されました。
- ・パートナーグループアンケートでも、本取組に参画して一番良かった点をあげる自由記述では、他団体と知り合えた、ネットワークができたことをあげるグループが多くありました。
- ・一方、同アンケートで、新たに築くことのできたネットワークの構築数は、目標

の300件に対して109件にとどまりました。これは、ネットワークを築くには一定の時間が必要であること、交流・連携のきっかけとなる拡大座談会の開催が12月以降になったこと、個別座談会が増加したこと等が原因と考えられます。

④ 今後の方針

今後は、公募型の座談会や「テーマに基づき全県的に取り組む^{うま}美し国おこし」の取組を活用するなどして、パートナーグループ間の交流や他団体との交流を深めるとともに、ネットワークコーディネーターを中心として、必要なネットワークづくりに注力していきます。

(5) 中間支援機能・組織

① 目的（狙い）

個々の地域づくりのグループがその活動を継続していくためには、さまざまな側面支援を継続的に得られる仕組みの整備が必要であることから、パートナーグループが新たに中間支援組織・機能の創設、拡充を行う際に支援します。

② 内容

医食同源や健康全般に関わる幅広いジャンルの住民等の活動や産官学民の取組をネットワーク化し、地域・分野を越えた連携や起業を支援する中間支援組織をめざすグループの支援を行いました。

また、「地域づくりに関する『中間支援組織』のあり方」にかかる政策研究ワークショップを実施し、県内の市民活動センターを運営するNPOを対象を絞って、現状と課題、ニーズ等についてヒアリング調査を行い、今後の取組の参考としました。

【主な意見】

●中間支援組織としての課題

恒常的な資金の確保／人材育成／自主事業比率の向上／情報発信力の向上／企業との協働、受託事業の獲得／独自事務所の設置と職員増

●今後の目標

中間支援組織についての住民、NPO、行政への理解促進／政策研究と提言の推進／市民活動センターのあり方の見直しと県全体の底上げの推進／協働の定着、受け皿となる民の整備の推進／CSR（企業の社会的責任）の推進と企業との連携／コミュニティビジネスへの注力

③ 取組の成果など

- ・パートナーグループの「医食同源みえ」が、中間支援機能に係る部分を平成22年度3月に社団法人化しました。
- ・中間支援組織の創設、機能の拡充など、地域づくりの取組の自立・持続性を高める仕組みの構築数は、目標の3件に対して1件にとどまりました。

④ 今後の方針

本取組で必要とする中間支援のあり方の検討を進め、中間支援機能を担うグループなどの育成を行っていきます。

(6) 専門家派遣

① 目的（狙い）

パートナーグループの活動を活性化し、課題の解決を支援するために、それぞれ

の案件にふさわしい専門家を派遣します。

② 内容

パートナーグループの要請に基づき、プロデューサーと協議の上、ふさわしい専門家を9件延べ16回(日)派遣しました。

派遣日	派遣を受けたパートナーグループ名	派遣した専門家	アドバイス内容
平成21年 11月9日	桑名の千羽鶴を広める会	一瀬恵美子さん(国際コーディネーター)	千羽鶴を活用した国際的貢献
平成21年 11月21・22日	ぽっかぽかの会	MANGOSTEEN(旅するケータリングチーム)	地域の食材を使ったメニュー開発
平成21年 12月12日	ぽっかぽかの会	安里芳樹さん(LADDリーガルアドボガシー 障害をもつ人の権利 事務局 局長)	障がい者が働く喫茶店づくり
平成22年 1月7日、2月2日、3月30日	下河内の里山を守る会	大川真清さん(獣医師、食品衛生コンサルタント)	特産品の加工施設や商品開発
平成22年 1月16・17日	三重・とらいあんぐる	堀内強美さん(㈱桜井代表取締役、横浜マイスター)	食肉加工や飲食店経営
平成22年 2月13日	たき環境くらぶ“竹遊号”	渡邊正俊さん(竹文化振興協会専門員)	竹林の管理や竹の利活用
平成22年 3月4・5日、23・24日	三重・とらいあんぐる	堀内強美さん(㈱桜井代表取締役、横浜マイスター)	未活用産品を生かした名物づくり
平成22年 3月14日	ぽっかぽかの会	矢野孝さん(矢野紙器㈱代表取締役社長)	障がい者が働く喫茶店づくり
平成22年 3月17日	「ひとのわコンサート」実行委員会	堀哲也さん(ミュージシャン、プロデューサー)	コンサートの広報と運営



(専門家派遣：ぽっかぽかの会)



(専門家派遣：たき環境くらぶ“竹遊号”)

③ 取組の成果など

- ・必要とされる専門家を派遣することで、パートナーグループの活動が充実したものになりました。

④ 今後の方針

パートナーグループが活動を継続していく上でも、県内の専門家が対応できるものは、極力県内の専門家を派遣するとともに、この制度の活用を一層進めます。

(7) 広報・誘客支援

6 (1) 広報宣伝に再掲

(8) ネットワーク化支援（「^{うま}美し国おこし・三重」サポーターズクラブ）

① 目的（狙い）

パートナーグループ活動の協働や連携を推進するため、地域や社会への貢献活動に関心のある企業や地域との連携を進める大学、団塊の世代等と地域づくりの担い手やサポーターのネットワークづくりを進めます。

② 内容

本取組のPRや実際の活動の支援を行う個人、団体、企業にご登録いただき、必要に応じて、できる範囲で取組を支援する「^{うま}美し国おこし・三重」サポーターズクラブを平成21年10月に創設しました。

③ 取組の成果など

仕組みをつくり、県内外の方へも一定の周知を図ったことから、平成21年度は、団体12件、個人66名の登録をいただきました。

④ 今後の方針

引き続き、サポーターの登録を進めるとともに、現在の仕組みでは、実行委員会が主催する事業以外、例えば、パートナーグループへの支援は登録された皆さんの自主性に任されているので、さらにサポーターズクラブの皆さんに活躍していただくことができる場の設定を検討していきます。

(9) 財政的支援

① 目的（狙い）

パートナーグループの活動の自立・持続性を高めるため、地域に貢献しながら安定した活動を維持できる取組の初期投資の費用に対して支援します。

② 内容

プロジェクトを企画し、認定を受けたパートナーグループに対し、市町の考え方に沿って、初期投資にかかる経費を1回に限り市町とともに支援しました。平成21年度は4件の支援を行いました。

(単位:円)

	事業名	PG名	市町名	実行委員会補助額 (市町負担分含む)	左欄のうち 市負担額
1	桑名の千羽鶴(連鶴)プロジェクト	桑名の千羽鶴を広める会	桑名市	326,570	163,285

<事業概要>

国際的な情報発信の基盤整備や専用和紙の確保等により、「桑名の千羽鶴」を広く世界にアピールすることで、活動の賛同者と愛好者を増やすとともに国際機関や在日外国人とのネットワーク化を図り、自立的継続発展につなげていく。

(対象経費：折り方テキストの外国語翻訳とHP作成等の委託、専用和紙に対する目利き力と講座運営技術の向上のための専門家ヒアリング経費)

	事業名	PG名	市町名	実行委員会補助額	市町補助額
2	乱歩黒テントの世界	乱歩蔵びらきの会	名張市	1,000,000	500,000

<事業概要>

オリジナル専用テントを購入し、乱歩の世界観を演出することで、市民だけでなく市外のファンを増やし、経済的基盤を確立していく。また、乱歩とゆかりのある他の市町とも連携することで、ネットワークを構築していく。

(対象経費：テント一式購入、機材一式借用料、HP作成等委託)

	事業名	PG名	市町名	実行委員会補助額	市町補助額
3	ワイワイオリジナル・さかなグッズ開発プロジェクト	手づくり工房・ワイワイ	紀北町	180,000	120,000

<事業概要>

ミシンの購入等により、サカナにこだわった収益性の高いオリジナルグッズを開発することで、会の自立・持続運営を図るとともに、紀北町の新しい産品として町外にPRしていく。

(対象経費：ミシン購入、試作品材料等購入等)

	事業名	PG名	市町名	実行委員会補助額	市町補助額
4	紀北町下河内 人・食・技旬の魅力PR事業	下河内の里山を守る会	紀北町	180,000	120,000

<事業概要>

生産物加工販売施設の整備により、個人で栽培している農産物を直売する場を提供することで、生産者の栽培継続意欲を高める。また、体験プログラムと併せて情報発信することで集客力を高め、将来的な移住促進につなげていく。

(対象経費：生産物加工販売所整備、備品購入等)

※1の桑名市においては、負担金方式を採用しているため、実行委員会が市の支援と併せて、パートナーグループに直接補助します。

※2の名張市の事業はオープニングのキックオフプロジェクトであり、50万円の上乗せ補助が認められています。

※3・4の紀北町の補助制度は、実行委員会も含めた補助総額を30万円までと定めています。また、過疎地域等に該当しますので、実行委員会の負担割合が大きくなっています。



(財政的支援：桑名の千羽鶴を広める会)



(財政的支援：手づくり工房・ワーイワイ)

③ 取組の成果など

- ・活動を充実、継続していくための必要な支援を市町とともに行うことができました。
- ・取組の初年度だったことから、件数が4件にとどまりました。

④ 今後の方針

パートナーグループの自立・持続につながる取組に向けて、引き続き、パートナーグループ、実行委員会、市町、プロデューサーが協議しながら、企画を検討して、必要な支援を行っていきます。

6 広報宣伝・活動促進の取組状況

(1) 広報宣伝

① 目的（狙い）

主に県民の皆さんに「^{うま}美し国おこし・三重」のめざすところや、取組全体の理解を得るため、パートナーグループの活動の紹介などを通して、広報宣伝活動を行います。

② 内容

下記の取組を通して、取組全体の認知・理解促進を図るとともに、地域での^{うま}美し国おこしの取組（個々のパートナーグループの活動）の認知促進に焦点をあてた情報発信や、地域ごと、マスコミ媒体ごとの特性に応じて、本取組を支援いただけるよう理解を求め、情報提供や取材依頼を行いました。

ア 機関紙の発行（「^{うま}美し国おこし・三重」だより）

本取組の周知を図り、関心を高めるため、基本計画の策定等の取組状況や実行委員会からのお知らせ、サポートメニューや拡大座談会などの取組等の情報を掲載し、第5号、第6号の計2回発行し、県民の皆さんや市町、地域づくり関係者等に配布しました。

- ・第5号、第6号…各20,000部

イ マスコットキャラクターの募集

本取組の広報に役立てるため、平成22年1月12日から2月25日まで募集

したところ、県内外から1,054件の応募があり、三重県在住の方の作品が最優秀作品に選ばれました。

(4月17日の「県民の日」記念事業の中で最優秀賞受賞者の表彰式を行いました。)

また、本募集と「対話する」大会や成果発表・交流会の案内をテレビやラジオ、新聞など、各種媒体を使ってPRしました。



う~まちゃん (※愛称は平成22年7月23日決定)

ウ 「座談会だより」(あむあむ)の作成

県内各地で開催されました「座談会」の内容をわかりやすくまとめ、地域づくり関係者や関心のある方を中心に、本取組を周知し、参加を促進するための「座談会だより」を発行し、県民の皆さんや市町、地域づくり関係者等に配布しています。

・第2号～第7号…各15,000部

エ 基本計画の概要版、ハンドブック等の作成

「^{うま}美し国おこし・三重」基本計画の概要版や、その取組の具体的な内容やスケジュールを掲載したハンドブック等を作成し、県民や市町、地域づくり関係者の皆さんに、取組への関心を高め、参加を促進するため配布しました。

オ 啓発グッズの作成

本取組を県民や市町、地域づくり関係者の皆さんに周知し、取組への関心を高め、参加を促進するため、クリアフォルダ、手提げ袋、ポケットティッシュ、シール、ボールペン、シャーペン、蛍光ペン、メモ帳、モバイルクリーナーなどの啓発グッズを作成し配布しました。

カ ホームページの拡充

個々のパートナーグループの活動紹介を掲載するとともに、活動への参加・協力募集の告知を行うことのできる掲示板をホームページ上に作成しました。

キ その他の広報

- ・ 県政だよりに毎号「^{うま}美し国おこし・三重」のページを設け、県民の皆さんにお知らせしています。
- ・ 毎週金曜日に県の取組を紹介している三重テレビの「^{うま}輝け！三重人～きらめく美し国～」において、毎月第4週に「^{うま}美し国おこし・三重」の取組を放映しています。
- ・ 平成22年1月から3月にかけて、「^{うま}輝け！三重人～きらめく美し国～」の放送内容を編集したものを、三重テレビで放映するとともに、県内のCATVにおいて放送しました。

③ 取組の成果など

- ・ パートナーグループへのアンケートで、本取組を知ったものとして、県・市町の広報紙（54件、38.3%）に次いで、実行委員会広報紙（33件、23.4%）が上げられています。
- ・ また、同アンケートでパートナーグループの広報支援については、満足、概ね満足と回答いただいたグループは88（78.2%）となっています。
- ・ 一方で、まだまだ、本取組が広く知られていない状況にあります。

④ 今後の方針

マスコットキャラクターを使った広報など、引き続き県民の皆さんへの広報に努めていきます。

（2）活動促進

① 目的（狙い）

本取組を推進するため、誘客活動促進、販売活動促進、移住・交流活動促進、コミュニティビジネス活動促進の4つの分野について、国や県・市町の関連諸事業等を整理します。

② 内容

個々のパートナーグループの取組に応じて、プロデューサー等から助言や情報の提供を行うとともに、パートナーグループの情報発信に努めました。また、必要に応じて専門家派遣を行いました。

③ 取組の成果など

国や市町の関連諸事業等の整理については行うことができませんでした。

④ 今後の方針

本取組の活動を促進するため、国や県・市町の取組との連携を一層図っていきます。

7 目標と評価検証・記録の状況

（1）目標の設定と評価

本取組を第三者の視点を加えて検証・評価する評価委員会を設置することとしまし

た。平成21年度の取組における目標数値との対比は下記の通りです。

本取組の基本となる座談会の開催数やパートナーグループの登録数は、目標値を上回り、パートナーグループの活動充実・満足度も高かったことから、参画した方への取組の認知と理解は広まったと考えます。一方で、ネットワーク構築数や自立性・持続性を高めるしくみづくりについては、一層の推進を図る必要があります。

【全体指標の目標値及びその結果】

① 「1万人アンケート調査」による「地域への愛着度」

(平成21年度の結果に基づき目標を設定)

平成21年度の調査結果が69.4%であったことから、平成26年度の目標を75%、平成22年度の目標を71%としました。

[基準年のため、目標を設定していません。]

② パートナーグループの活動充実・満足度

この取組に参画するパートナーグループの自己評価による活動充実・満足度

70%以上
[実績 84.1%]

③ 集客・交流者数

三重県における観光レクリエーション入込客数

3,400万人
[実績 3,369万人]

【個別の取組指標の目標値及びその結果】

① 自発的な地域づくりのグループの発掘、育成

100グループ
[実績 153グループ]

② 自立性・持続性を高めるしくみづくり

3件
[実績 1件]

③ 新たなイベントスタイルによる地域力の結集と成果の情報発信

ア) ネットワーク構築数

300グループ
[実績 109グループ]

イ) 地域活動参加率

19.4%
[実績 15.2%]

④ その他の個別の取組指標と目標の設定

ア) 座談会開催数

350回
[実績 599回]

イ) 市町／広域拡大座談会（ワールドカフェ方式）開催数

25回
[実績 12回]

(2) 記録

① 目的（狙い）

本取組を行っていく上で、「成果の評価・検証」及び「成果の情報発信」が重要となるため、個々の取組に関する記録を行っていきます。

② 内容

取組ごとに記録を行うとともに、その取組を実行委員会が発行する機関紙や座談会日より、ホームページ等で情報発信しました。また、パートナーグループへのアンケート調査を行いました。

③ 取組の成果など

それぞれの取組の記録を行うとともに、情報発信を行うことができましたが、検証・評価しやすい記録の方法を検討することが課題として残りました。

④ 今後の方針

検証・評価しやすい記録を行うよう留意して進めていきます。

8 協力・協賛の状況

① 目的（狙い）

「^{うま}美し国おこし・三重」は多様な主体で推進していく取組であることから、さまざまな形での協賛や協力を呼びかけていきます。

② 内容

ア 31の企業や団体等が、パンフレットやチラシ、名刺等にシンボルマークを活用し、取組の広報を行っていただきました。

イ 企業からの提案で、本取組に賛同いただく発注者（用紙利用者）、紙卸会社、当該企業が、使用する紙1kgあたり2円ずつ、計6円を本取組に寄付するという仕組みを構築しました。

ウ サポートーズクラブに登録いただいた皆さんや研修を受講された皆さんが、「対話する」大会や成果発表・交流会などにボランティアとして参加いただきました。

③ 取組の成果など

- ・シンボルマークを使った広報での協力は、一定の広がりを持ったものとなってきました。本取組の認知度が上がれば、さらに広がると考えます。
- ・一方で、広報以外の協力・協賛を増やしていくことが課題です。

④ 今後の方針

今後は、企業のCSR活動と結びつけての協力・協賛の仕組みの中で、広報での協力に加え、寄付金等での協力もいただけるよう取組を進めます。

9 県庁内連携、市町連携の状況

【県庁内連携】

(1) 「^{うま}美し国おこし・三重」推進本部員会議

① 目的（狙い）

「^{うま}美し国おこし・三重」推進本部員会議は、「^{うま}美し国おこし・三重」を推進するにあたり、各部局等が連携・協力し、一体となって取り組む必要があるため、副知事を本部長に各部局長・理事等を構成員として、平成19年11月に設置したものです。

② 内容

平成21年度は2回開催し、取組状況や平成22年度実施計画案の検討、各部局との連携、実行委員会提出資料などについて、説明、協議を行いました。

(2) 「^{うま}美し国おこし・三重」推進本部幹事会

① 目的（狙い）

各部局等の総務室長等を構成員とし、取組の具体的な検討など行うために平成20年2月に設置したものです。

② 内容

平成21年度は4回開催し、取組状況、職員説明会、啓発活動、平成22年度実施計画等について、説明や協議を行いました。

(3) 「^{うま}美し国おこし・三重」地域支援本部会議

① 目的（狙い）

県内全域で展開する「^{うま}美し国おこし・三重」における地域での取組を円滑に進めるために、県民センター所長を本部長に関係地域機関長を構成員として、平成21年1月から3月にかけて、9県民センターに設置したものです。

② 内容

平成21年度は延べ47回開催し、座談会の開催やパートナーグループの登録状況、各事務所の中でお互いに連携できる取組の検討、平成22年度実施計画等について、説明や協議を行いました。

(4) 県庁内連携の取組成果など

① 取組の成果など

- ・本取組の現状や実施計画の説明・協議を行うことで、各部局間、各地域事務所間で共通認識を持つことができました。
- ・地域支援本部員会議では、関連する地域事務所との連携のもと、具体的な取組を進めることができたものもあります。

② 今後の方針

推進本部員会議については、もう少し開催数を増やし、一層連携を密にするとともに、県を挙げて取り組む機運の醸成、連携事業の創設に努めます。

【市町連携】

(1) 市町説明会・意見交換会

① 目的（狙い）

本取組への理解をいただき、実際に運用していただくために説明会、意見交換会を開催します。

② 内容

平成21年4月に本取組の実施計画や各種制度の仕組みについての説明会を4会場で開催し、11月に取組の進め方についての意見交換会を3会場で行いました。また、平成22年1月には、22年度の実施計画の説明会・意見交換会を開催しました。

(2) 市町訪問

① 目的（狙い）

市町の首長や幹部職員を対象に、理事が全市町を訪問し、取組への理解、協力を求めます。

② 内容

「^{うま}美し国おこし・三重」担当理事が、春（4・5月）と秋（10・11月）に、全市町の首長、幹部職員を訪ね、取組への理解を求めました。

(3) 「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」等での報告

① 目的（狙い）

市町の首長や市町の幹部職員が集まる機会を捉え、取組への理解や現状報告を行います。

② 内容

町村会や市長会での説明や「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」等で状況報告等を行い、取組への理解を求めました。

(4) 市町連携の取組成果など

① 取組の成果など

市町の首長から担当者まで、広く取組の理解を求めた結果、全市町で座談会の開催が開催されるなど、連携して取り組める体制が整ってきました。

② 今後の方針

地域駐在を中心に、引き続き、取組への理解促進と、より良い取組にしていくための意見交換を進めていきます。

10 評価委員会意見

評価委員会は、県議会からのご指摘を踏まえ、「^{うま}美し国おこし・三重」実行委員会が行う取組について、第三者の視点から中立的な検証・評価を行うために実行委員会に設置したものです。

平成22年7月20日（火）に第1回会議を開催し、平成21年度実施計画に基づく取組に関していただいた主な意見とそれに対する考え方は下記のとおりです。

〔地域での^{うま}美し国おこし〕

意見	対応方針
プロデューサーの実績報告書に、座談会等の実施についての記載があるが、その結果についての記載がない。	毎月座談会等の実績報告を提出させていますが、その後の状況を報告する形になっていないため、報告様式も含め、記載方法について検討・協議します。
パートナーグループに自立を促す仕組みがない。支援を受けただけでは、自立・持続につながらないのではないかと。	プロデューサーの助言や研修、ネットワーク化支援等を行っていますが、より効果的に行えるよう検討するとともに、自立を促す機会としてパートナーグループへのアンケートなどを工夫することを検討していきます。

〔^{うま}美し国おこし・三重〕オープニング〕

意見	対応方針
オープニングのキックオフプロジェクトについては、新規に頑張ろうとするグループだけではなく、既に県内で活躍されていてノウハウを持っている人たちが加入、または支援することで、成功事例を作り出す必要があったのではないかと。	現在、ご意見にあるような取組を意識して、ネットワーク化支援などの取組を行っています。
成果発表・交流会については、来場者が2,200人もあったことや取組を知らない人が2割以上来場されていたことなどを踏まえると、県民が何かを期待していることや、参画グループからの口コミでの広がりが見受けられる。	一層の周知に努めていきます。

〔担い手の育成と支援〕

意見	対応方針
中間支援組織を、その立ち上げから、自立・持続するところまで6年間でもっていくのは難しいので、既存の組織の活用が必要ではないかと。	ご意見のとおり、既存の組織と連携して取組を進めていきたいと思っております。
専門家派遣については、まずは県内の人材を活用し、本取組終了後に支援の仕組みが残るように考えないといけないのではないかと。	現在、ご意見の趣旨に沿った専門家派遣を進めています。

〔広報宣伝・活動促進〕

意見	対応方針
発行紙は内容やデザインをもっと見直すべきではないかと。また、NPOにお願いするなど、作り方も工夫が必要ではないかと。	委託事業者と相談しながら、分かりやすい紙面になるよう工夫していきます。編集についても、パートナーグループやサポーターの

か。	意見を反映したものになるよう努めます。
何かをやりましたという実績だけを周知しているだけなので、効果や成功事例を案内する必要があるのではないか。	ご意見を参考に内容や紙面構成を考えていきます。

〔目標と評価検証・記録〕

○ 全体指標

【参画するパートナーグループの自己評価による活動充実・満足度】

意見	対応方針
パートナーグループの自立の可能性がどれだけ高まったかを測ることが必要で、継続を示す指標にすべきではないか。	具体的に、どのような指標が良いのか検討していきます。

【三重県における観光レクリエーション入込客数】

意見	対応方針
基本構想での目的は、集客交流の拡大を図ることで、自立・持続可能な地域づくりにつなげることだったと思う。	現在は、「地域での ^{うま} 美し国おこし」の取組を中心に行っており、今直ちに集客交流が図れる状況にはないと考えますが、今後、取組の進捗に応じて、集客交流の拡大につなげていきます。

○個別指標

【パートナーグループとして登録されたグループ数】

意見	対応方針
現状、市民活動団体として把握できる数が、2,200程度あるので、1,000グループ作ることよりも、その1,000グループがどのようにして地域を盛り上げ、どういう状態になっているかを成果にする必要があるのではないか。	定量的な目標は1,000グループと置きながら、どのようにして地域を盛り上げ、どういう状態になっているかを測る指標を検討していきます。
地域が活性化したことを示す指標は、市民活動団体数だけではなく、集客・入込客数や税収などいろいろ考えられる。	地域への愛着度や集客・交流数などの指標を設定していますが、この取組では、どのような指標がより良いのか、検討していきたいと思えます。

【自立性・持続性を高めるしくみづくり】

意見	対応方針
実際に必要な中間支援機能・組織が何であるか、またあり方を、ここ1、2年で示す必要があるのではないか。	取組内容を、ご意見の期間内にお示しできるよう検討していきます。
ゼロから作り上げるのは6年間では難しく、既存の団体を活用することなど、手法の工夫が必要ではないか。	これまで活動されてきた皆さんと連携しながら、進めていきます。

【ネットワーク構築数】

意見	対応方針
「ネットワーク」を定義することが必要ではないか。	定義について、その内容を検討していきます。
拠点化をめざしたネットワークが必要になると考えるので、NPOだけのネットワークではなく、産学官民のあらゆるセクターとの連携を念頭に置く必要があるのではないか。	多様な主体が参画する地域づくりの実現に向けて、ネットワーク化の取組を進める参考にさせていただきます。

〔協賛・協力〕

意見	対応方針
CSR（企業の社会的責任）に絡めて、本取組をPRする仕組みが必要ではないか。	仕組みの検討を進めます。

◇「^{うま}美し国おこし・三重」の取組の仕組みについて（前述の重複部分を除く）

意見	対応方針
市町との連携がきっちりとれているかどうか。	さまざま機会を通して、理解の促進と連携を図ってきましたが、今後も一層の連携を図っていきます。
実行委員会委員の活用が必要ではないか	委員の皆さんにも可能なことからお願いしてきましたが、一層の取組の参画をお願いしていきます。

◇「^{うま}美し国おこし・三重」プロデュース業務について（前述の重複部分を除く）

意見	対応方針
契約書（業務仕様書）には、プロデュース業務を実施し、どういう状態にもっていくかの記載がないので、成果による検証・評価が難しい。	実施計画に基づき、事業を実施しているので、実施計画にある事業内容、目標値に対してどうであったか、という視点での検証・評価をお願いしています。 今後の契約に際しては、どのような状態に持っていくか、ということについての記述を仕様書に追記するよう、検討していきます。

◇「^{うま}美し国おこし・三重」の取組の成果について（前述の重複部分を除く）

意見	対応方針
平成21年度にどのような状態にしたのか、平成21年度の実施計画にある目標値からは明確になっていないため、平成21年度の取組の成果を検証・評価することは難しい。 平成26年の最終的な姿・目標を明確にし、それを達成するための短期・中期の目標も設定する。そして、各年度の目標を設定する必要があるのではないか。	平成21年度については、実施計画にある事業内容、目標値に対してどうであったか、という視点での検証・評価をお願いしています。 平成26年の目標値も基本計画に記載していますが、どのような状態に持っていくか、ということについての具体的な目標値について、再度検討を行うとともに、短中期の目標についても検討をしていきます。

